

ホープツーリズム（企業等の人材育成研修版）

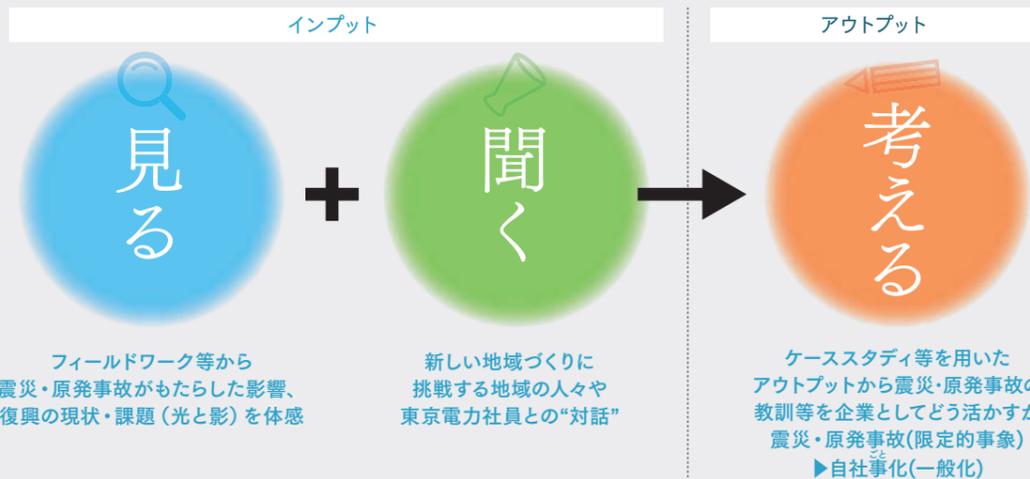
世界で類を見ない「複合災害」を経験した福島オンリーワンの人材育成研修プログラム

ホープツーリズム（企業等の人材育成研修版）とは

震災・原発事故の被災地域をフィールドとした企業等の人材育成研修プログラムです。

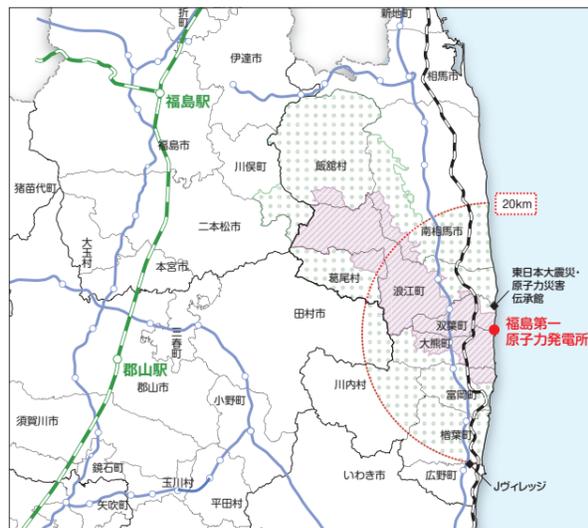
フィールドワークや地域の人々、東京電力社員との対話による「インプット」とケーススタディ教材等を使用した「アウトプット」を通じ、震災・原発事故の教訓等を企業としてどう活かしていくかを考えます。

世界で類を見ない「複合災害（地震・津波・原発事故）」の教訓、復興への挑戦の過程からは、「リスクマネジメント（リスクの捉え方、判断・対応）」や「持続的に発展可能な組織や社会」を考えるための学びがたくさんあります。震災・原発事故は、決して、福島や電力業界だけの問題（限定的事象）ではありません。私たちは福島の経験、教訓等が真の意味で「持続的に発展可能な組織や社会の実現、一人ひとりの行動変容」に活かされる時、社会全体に「希望の光」が輝き出すと信じています。



【震災・原発事故の影響、復興の現状・課題】

震災や原発事故の影響による避難指示区域の設定により、ピーク時には16万人以上の福島県民が県内外で避難生活を余儀なくされました。現在は、原発事故による避難指示は解除が進み、復興の光が見える一方で、避難指示が継続中の地域もあります。避難指示の解除は復興のゴールではなく、スタートラインであり、多様な課題を抱えながらも、生活環境の整備、持続的に発展可能な地域づくりを目指した取組みが行われています。



お問い合わせ ☎024-525-4060 8:30~17:30(土日祝日を除く)

WEB <https://www.hopetourism.jp/>

福島県ホープツーリズム 検索

✉ hopetourism@tif.ne.jp

発行 福島県観光交流局観光交流課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 TEL.024-521-7398 FAX.024-521-7888

問 公益財団法人福島県観光物産交流協会 ホープツーリズム推進課

〒960-8053 福島県福島市三河南町1-20 コラッセふくしま7階 TEL.024-525-4060 FAX.024-525-4087

次世代リーダー、中間管理職、危機管理部門、人材育成部門等向けのプログラム

～震災・原発事故の教訓等から「リスクマネジメント」や「持続可能な組織等のあり方」を考える～

● ガイダンス (チェックイン)

震災・原発事故の概要、影響、復興の現状・課題の全体像を説明。震災・原発事故の事実、教訓等から企業の「リスクマネジメント」や「持続可能な組織等のあり方」を考える意識付けを実施。

自然災害・重大事故

安全神話・想定外

日本の企業文化

組織の機能不全

企業の社会的責任

安全と経営の矛盾

見る



避難指示解除後の地域等でのフィールドワークから震災・原発事故の影響、復興の現状・課題を体感する



福島第一原子力発電所構内をバス車窓から見学し、原発事故の経過や廃炉の進捗状況について説明を受ける

聞く



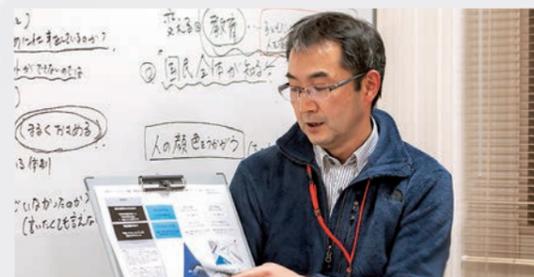
避難指示解除からの新しい地域づくりに向けた挑戦について、地域団体と対話



東京電力社員を交え、企業等の社会的責任をテーマにディスカッションを実施

考える

「震災・原発事故の教訓」に関するケーススタディ



国会事故調報告書を資料として、原発事故発生の背景・原因を知り「リスクの捉え方、判断・対応、企業の社会的責任を果たすための組織のあり方等」について、幅広い視点から考える

「復興への挑戦」に関するケーススタディ



復興事業の立案、調整、実行の過程等を題材としたケーススタディから、人と人、組織と人の関係性（ヒューマンプロセス）を考察し、対話型の組織開発について考える



まとめのアウトプット ※ご要望に応じて臨機応変にテーマ設定が可能
教訓等を自社や自らの業務における「リスクマネジメント」や課題に立ち向かい、変化に対応し続ける「持続的に発展可能な組織形成」のために必要な視点等をまとめる

コース例

日本経済団体連合会震災復興特別委員会 1泊2日

- 1日目 8:00 JR上野駅 発(特急ひたち)
- 10:57 JR富岡駅 着
- 11:10 【富岡町】富岡ホテル
- ガイドス 研修ガイドス・昼食
- 見学 (車窓)国道6号(一部、帰還困難区域)通過
- 見学 【浪江町】フィールドワーク(請戸漁港、請戸小、大平山霊園)
- 考える アウトプット①(国会事故調査報告書から原発事故の原因・教訓を考える)
- 聞く 【原発・廃炉】東京電力社員を交えたテーマディスカッション
- 宿泊 【浪江町】ホテル双葉の杜 着
- 聞く 【地域づくり】(一社)まちづくりなみえ 菅野事務局次長

- 2日目 8:30 【浪江町】ホテル双葉の杜 発
- 見学 (車窓)国道6号(一部、帰還困難区域)通過
- 見学 【富岡町】東京電力廃炉資料館
- 見学 【大熊町・双葉町】福島第一原子力発電所構内(車窓)
- 食事 【富岡町】ホテル蓬人館
- 考える アウトプット②(原発事故の教訓を自社や自らの業務におけるリスクマネジメントにどう活かすかを考える)
- 17:10 JR富岡駅 解散



参加者の声

株式会社日立製作所 社員

原発事故は、電力業界だけの問題ではない。どの業界や企業でも起こり得ること。「リスクに対する意識」「物事に絶対はない」「原点に立ち帰る勇気」など、あらゆる企業に生じ得る重大事故のリスクについての意識を学ぶことができた。あらゆる業種に親和性がある学びであるとともに、個人一人ひとりの意識の醸成にもつながる。個人一人ひとりの意識の変化が組織としてのリスクマネジメント強化につながると感じた。

野村ホールディングス株式会社 社員

金融業界も電力業界も大きな設備やシステムで成り立つ「装置産業」。システムが止まる、機械が壊れる、バックアップも働かない...といったリスクに対して、コンティンジェンシープラン(緊急時対応計画)をどこまで想定し、どのように定めるかを掘り下げて考えることが重要。原子力発電だけでなく、社会において、様々なシステムを利用する消費者側もメリットだけでなく、重大事故が起こるリスクとコストをどこまで引き受けるのか等について考える必要があると感じた。

コース例

(株)本田技術研究所とその関連企業等の社員 1泊2日

- 1日目 8:15 郡山駅 発(貸切バス)
- 対話 【富岡町】[原発・廃炉]東京電力社員
- 見学 【大熊町・双葉町】福島第一原子力発電所構内(車窓)
- 見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
- 見学 【浪江町】フィールドワーク(浪江駅周辺、請戸小、大平山霊園)
- 考える アウトプット①(震災・原発事故の教訓から学ぶ「危機管理マネジメント」)
- 宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着
- 考える 振り返り

- 2日目 9:00 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発
- 対話 【地域づくり】(一社)まちづくりなみえ 菅野事務局次長
- 考える アウトプット②(復興への挑戦から学ぶ「対話型組織開発」)
- 考える アウトプット③(まとめのワークショップ)
- 17:00 福島駅 解散



参加者の声

株式会社本田技術研究所 社員

HONDAでは、三現主義(現場・現物・現実)の原則に基づくモノづくりを行っているが、今回の研修を通じて、自分の目や耳で生の情報や状況を確認することの重要性を改めて感じる事ができた。リスクマネジメントは重要とされているが、多くの企業内でまだまだ浸透していないのが現実。時間が取られる、面倒、厄介等のネガティブな印象を持たれているが、そうではなく、企業全体の利益につながるという視点が大切。また、復興への挑戦からは、挑戦するというマインドが薄れている若い世代に、挑戦することの意義や大切さを教える意味でも非常に学びの効果が高いと感じた。

株式会社オートテックジャパン 社員

ケーススタディを行う研修は多いが、非常にリアル感があり自分事化につながる。特に、復興事業の立案、調整、実行等を素材としたケースは、ドラマのように場面が展開し、臨場感があり斬新で新鮮だった。復興への挑戦の過程からも、自社内と同じようなヒューマンプロセス上の問題や課題があり、適切なプロセスを踏む上での葛藤や工夫、決断等を学ぶことができ、非常に参考になった。「自分が少し勇気を持って行動すれば結果が大きく変わる」ことを実感し、組織における対話の重要性、個々の変化が組織変革に必要という気づきを得ることができた。

若手社員、事業開発部門向けのプログラム

～震災・原発事故の教訓等からこれからの社会に求められる企業等の役割を考える～

世界で類を見ない「複合災害」は多様な分野に影響を及ぼし、様々な社会課題が顕在化しています。様々な分野で復興に挑戦する人々との対話、廃炉やロボット技術の研究開発、エネルギー関連産業などの最先端の取組から、顕在化した社会課題を体感することで、これからの社会に求められる企業等の役割(新規事業創造、CSV、CSR等の視点)や企業人としての挑戦心等について改めて考えます。

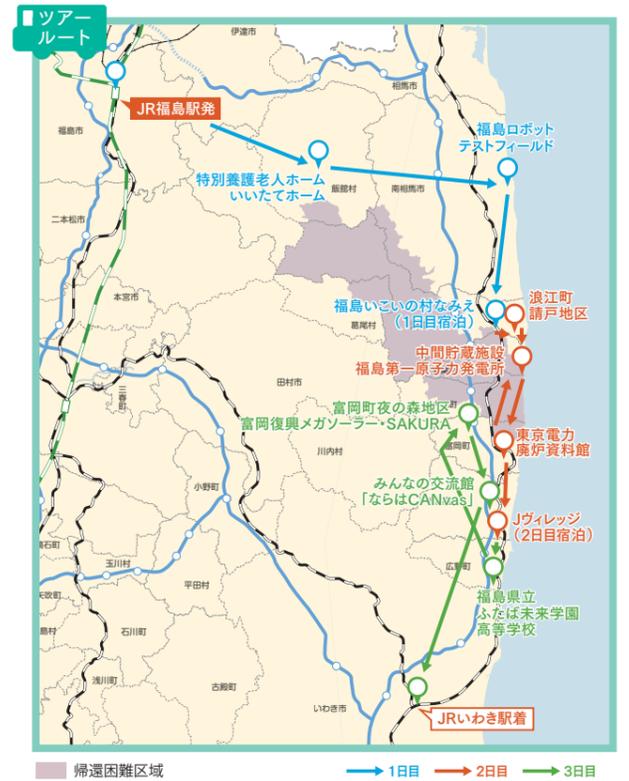
コース例

国家公務員総合職内定者 2泊3日

- 1日目 10:00 福島駅 発(貸切バス)
- ガイドス 【飯館村】研修ガイドス・昼食
- 対話 【飯館村】[医療・福祉]特別養護老人ホーム いいたてホーム 三瓶元施設長
- 対話 【南相馬市原町区】[新産業](株)タカワ精密 渡邊取締役
- 宿泊 【浪江町】福島いこいの村なみえ 着
- 考える 振り返り

- 2日目 7:30 【浪江町】福島いこいの村なみえ 発
- 見学 【浪江町】フィールド学習(請戸漁港、請戸小、大平山霊園)
- 見学 国道6号(一部、帰還困難区域)通過
- 見学 【大熊町・双葉町】中間貯蔵施設
- 食事 【大熊町】大熊食堂
- 見学 【富岡町】東京電力廃炉資料館
- 見学 【大熊町・双葉町】福島第一原子力発電所構内(車窓)
- 対話 【原発・廃炉】東京電力社員
- 宿泊 【広野町・楡葉町】Jヴィレッジ 着
- 考える 振り返り

- 3日目 7:30 【広野町・楡葉町】Jヴィレッジ 発
- 見学 【広野町】福島県立ふたば未来学園高等学校
- 対話 【教育】南郷副校長
- 見学 【富岡町】夜の森地区
- 見学 【富岡町】富岡復興メガソーラー・SAKURA
- 考える 【楡葉町】ワークショップ
- 17:30 いわき駅 解散



見

顕在化した社会課題、最先端の取組みの現状を知る

聞

様々な分野で復興に挑戦する人々との対話から挑戦心を学ぶ

考

これからの社会に求められる企業等の役割を考える

参加者の声

総務省 内定者

研修を通して一番感じたことは、「福島は日本の課題の縮図であり、同時に、課題に挑戦していく最先端県」ということだ。福祉施設での労働力不足や、高齢化が進む過疎地域など、日本がまさに直面している普遍的な課題が福島の地で進行していた。同時に、現場でのお話を通じ、その課題への解決策というのは、復興のためのみならず、普遍的な課題を克服する可能性を秘めていることに気づいた。

環境省 内定者

原発事故に関連した問題には、未解明かつ時間が経つことで状況が大きく変わる事項がたくさんある。ゴールを見据えた政策が重要である一方、変化に柔軟に対応することも必要。研修を通じ、様々な社会課題の壁の厚みを感じた。その厚みを少しでも薄くする粘り強さが自分にあるのか、そう自問自答した参加者は私だけではなかったと思う。